

## 第 18 回 日本建築学会埼玉支所 埼玉住まい・まちづくり交流展

「 寄居町住まい・まちづくり交流展 」

2018 年 4 月 14 日（土）－15 日（日） AM9:30 － PM17:00

会場： 寄居町勤労福祉センター（よりの会館）

2018 年 4 月 14 日、15 日に寄居町勤労福祉センターにて、第 18 回 日本建築学会埼玉支所 埼玉住まい・まちづくり交流展「 寄居町住まい・まちづくり交流展 」が、日本建築学会関東支部埼玉支所及び寄居町商工会の主催にて行われた。

寄居町では、平成 30 年 3 月に寄居町中心市街地活性化基本計画が内閣総理大臣の認定を受け、寄居のまちづくりが本格的に始動する。それに先立ち、今後のまちづくりの参考にするべく、「まちあるき」や、多様な立場の方々による講演会、学生によるまちづくりに対する様々な提案などが行われた。

14 日（土）

◇ 寄居 交・流 まちあるき AM9:30－PM12:30

心地よい天候の中、まちあるきがスタートした。主なルートとしては、【 よりの会館 → 荒川さくら館 → 玉淀河原 → 京亭 → 鉢形城址 → よりの会館 】という順で、説明を受けながら歩いた。

まず、最初に伺った「 荒川さくら館 」には、桜の名勝地である寄居に咲く 135 品種の桜の写真が展示されていた。また、寄居で見られる昆虫やコレクションの展示も行われている。

続いて、荒川沿いに位置する玉淀河原を經由し、浅草オペラの創始者としても知られる佐々紅華の自邸を前身とした 割烹旅館「枕流荘 京亭」を見学。佐々紅華自ら図面を引いたこだわりある建物や美しい日本庭園などに、感銘を受けていた。

まちあるき後半では、日本有数の堅城としても知られる鉢形城址を巡った。川に挟まれた地形を活かした構成や、お堀や土塁の跡を、「 実際に城に攻め入る 」ことを想定したルートを、それぞれ歴史に思いをはせながら歩いていた。また、まち全体として細い路地や自然豊かな表情が豊富に見受けられ、歩きたい気持ちにさせてくれる町だと感じた。



◇ 寄居シンポジウム

PM13:30-PM17:00

(コーディネーター：鈴木弘樹)



【 基調講演 】

出口敦（東京大学・UDCKセンター長）

「今までの街づくり、これからの街づくり」

【 スピーカートーク 】

1. 大谷州弘（寄居町商工会）

- ・ 寄居の歴史と文化の紹介、今後の発展性について
- ・ 寄居の荒川・桜・文化について

2. 佐原滋元（向島百花園 茶亭さはら亭主）

- ・ 墨田の荒川・桜。水の文化および墨田の街づくりについて

3. 木下芳郎（日本工業大学）

- ・ 寄居の鉄道のポテンシャル、全国の鉄道による街づくり

4. 宇杉和夫（さいたまの森アーカイブ代表）

- ・ 埼玉の「地域街づくり」・寄居の「現状と未来」

シンポジウムの開始に先立ち、ご臨席された、日本建築学会関東支部埼玉支所長 時田芳文氏、寄居町 花輪利一郎町長、寄居町町議会 峯岸克明副議長からご挨拶を頂いた。

【 出口敦（東京大学・UDCKセンター長）】

「今までの街づくり、これからの街づくり」と題してご講演頂いた。

○『広域景観と地理・歴史からまちを見る、考える』

→ 寄居の街を広い視点や、長い時間軸で見ることの重要性をご説明いただいた。

○『地域主体のまちづくりと仕組みづくり』

→ 実際に出口先生が行った、福岡県でのまちづくりの事例をご紹介いただき、地域の人々が直接的に街をデザイン・マネジメントすることが大切だと説かれた。

○ 『公・民・学連携のまちづくりとセンターの重要性』

→ 現在進んでいる柏の葉キャンパスタウン構想の事例から、アーバンデザインセンターを設置し情報や人、活動が集まる場をつくり、公・民・学が連携することで効果的にまちづくりを進められる可能性をご教授いただいた。

続いて行われたスピーカートークでは、4人の方にお話しいただいた。

【大谷州弘（寄居町商工会）】

○ 割烹旅館「枕流荘 京亭」と佐々紅華の歴史について

○ 寄居の街の歴史について

→ 「知っているようで知らない寄居があることを伝えたい。」と、思いを語っていただいた。

○ 寄居を通る軸線

→ 浅間山と千葉の古墳群などを結ぶ軸線が寄居を通るという不思議な関係性。

【佐原滋元（向島百花園 茶亭さほら亭主）】

○ 寄居と墨田の共通点

→ 寄居の砂利が墨田のセメント工場に運ばれていた。

○ 墨田のまちづくりについて

→ 桜を活かした観光と、まちの特徴を整理することの重要性。

○ 「住民に 花をもたせる まちづくり」

→ まちづくりの主役はそこに住む人々で、専門家はまちの成長を支援する立場。

【木下芳郎（日本工業大学）】

○ 寄居駅の利用状況について

→ 寄居駅から通勤・通学する方々は片道一時間以上かかっている。この現状を考えると駅の機能がさらに重要になってくる。

○ 寄居駅の駅ナカ施設の可能性について

→ 駅を通過するだけの施設ではなく、商業施設や滞在型の施設として寄居駅を活用する様々な可能性を模索した。

【宇杉和夫（さいたまの森アーカイブ代表）】

○ 「人と自然の『寄居る』町」

→ 寄居町の名前の由来や歴史の解説。

○ 21世紀のまちづくりの方法

→ 20世紀の都市計画を主体としたまちづくりから、21世紀は地域の文脈やコミュニティ

を活かしたまちづくりが重要になっている。

○ 建築の地域に対する役割

各ご講演者のお話が終了後、ディスカッションとしてそれぞれの方に寄居町の印象についてお話を伺った。

○ 大谷州弘氏

長年寄居町に住んでいるが、人口減少の影響で路地を走る子供の声が聞こえなくなった。お年寄りのコミュニティが形成されにくくなった。

○ 佐原滋元氏

初めて駅を降りた時は静かな、賑わいのない町と感じた。ただ、歩いていて気持ちがいい街。

○ 木下芳郎氏

古い建築が多く残っており、歩き回っていて楽しい町。だが、火事などが起こった際の防災力は考えなければならない。

○ 宇杉和夫氏

周辺の間々や路地が魅力的であると感じた。

○ 出口敦氏

寄居町の歴史や、鉄道の路線の交わりなどを知ると、イメージが膨らむ。それらを踏まえて街を歩くと印象が変わる。わくわくさせてくれる町。

#### ◇懇親会 PM17:00-PM19:00

シンポジウム終了後、懇親会が催された。寄居周辺の酒蔵から日本酒が振る舞われ、参加者は寄居の未来について語り合っていた。



15日（日）

◇ 寄居提案 交・流 ポスターツアー AM9:30—PM12:30

両日展示されていた、埼玉建築士会や各大学の学生による、寄居のまちづくりに関する提案のプレゼンが行われた。周辺住民の方々にも多数お越しいただき、盛況を見せていた。



【 はじまりの場所 — 旧伊勢屋 — (埼玉建築士会) 】

- 旧伊勢屋さんをリノベーションし、まちづくりについて気軽に話せる場所を提案。
- 昔ながらのファサードを残し、後を減築し庭とすることで明るい雰囲気へ。
- 実測を踏まえ、実現可能な提案を目指した。



【点と線をつなぐ『寄り～道』(埼玉建築士会)】

- 寄居を通る様々な『道』に焦点を当て、丁寧にまとめていた。
- 学生の方々に見ていただいて、寄居のまちあるきの良さを知ってもらいたい。
- 住民の方々の知っている情報もパネルに書き込んで、多くの方々に伝えたい。



【まちの散歩道と空き店舗のリノベーションの提案 (日本工業大学)】

- 4つの魅力を抽出した。
  - ・ 割烹旅館「枕流荘 京亭」は旅館だが、食事のみの利用も可能。
  - ・ 細い路地と古い町並みが魅力的
  - ・ 鉢形城の桜は美しい。
  - ・ 荒川を望みながらのピクニックなどが楽しそう。
- 時計屋のリノベーション
  - 実測を行って、3つの機能を含んだ形を提案した。
    - ・ スタジオ (レクチャーやヨガなど、寄居の人々が気軽に利用できる。)
    - ・ 家族向けの飲食店
    - ・ 駄菓子屋 (既存のキッチンを奥へ移設して、空いた空間を駄菓子屋として利用。)

【寄居で過ごす3つのストーリー（日本工業大学）】

- 寄居町を3人の主人公が巡る、物語風の提案。
  - ・ 歴史とカメラが好き中年男性
  - ・ 工場勤めの夫とその家族
  - ・ 長年寄居町にする65歳男性
- それぞれの主人公を例に、町の歩き方の提案を行った。

【寄居駅～荒川の散歩道と塀の活用提案（芝浦工業大学）】

- マンホールにゆるキャラを利用した表記を行い、散歩道の誘導や魅力を伝える。
- 路地に面した塀を、子供たちが遊べるような工夫や、寄居の四季の魅力を伝える装置として利用する。



【寄居町の特徴的な要素を再発見（ものづくり大学）】

- 門塀・色素材・人々・植栽の4テーマで寄居町に潜んでいる魅力を再発見。



【“寄居る”ための提案（小山高専）】

- 豊かな自然と歴史の魅力を引き出したまちづくりが必要。
- 荒川の景色を楽しめる場所が欲しい。  
→ 景色を眺められる施設を川沿いに計画する。また、現状のただの通行路としての橋ではなく、座ったり横に並んで歩いたり、景色を楽しむ為の橋があれば魅力をさらに伝えられる。
- SNSなどを利用して、外から来る人に魅力を伝えたい。





### 【きもちよく川へ行こう（東洋大学）】

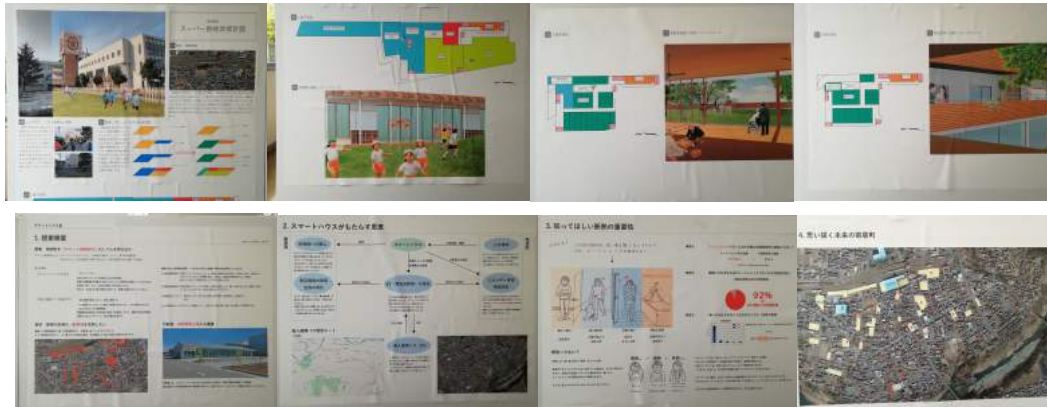
- 寄居の街のカラフルな色合いと、道や塀などによく見られた丸石を活かした駅から荒川までの歩行空間の提案。
- 荒川を一望できる展望台を計画。
- ポテンシャルが高い空間が多いため、少し手を加えるだけでいいものになる。



### 【寄居町の魅力の発見と課題への提案（千葉大学）】

- 小学生の目線で路地空間の魅力の再発見
- 子供の好奇心をくすぐる要素がたくさんある。
- 空き家の鉄道カフェへのリノベ
- 3路線が交わる寄居駅は、鉄道ファンへの需要がある。そこで鉄道カフェを設け、周囲の路地に鉄道の模型を走らせることで、鉄道を主体とした街としてPRできる。
- 駅前の大型商業施設跡の再活用
- スーパーの空き店舗を、保育園・福祉施設・ビジネスホテル・集合住宅へのリノベーション。町に人がいることが重要。その賑わいを町へと波及させる。
- 寄居町におけるスマートシティの可能性
- スマートハウスを用いたヒートショックのない家、無人バスや電気自動車、駐車場などを利用し空洞化している町を改善する。





◇トークセッション AM13:00-PM17:30



### 1 寄居町俯瞰・ドローン映像 高田早苗 (あーと・夢) 空撮から見る寄居の風景

航空測量により現実感のある3Dモデル作成が可能な時代。寄居の風景を空から見ると鉄道であったり川でのアクティビティが印象的である。今は見ることのできない城の間近での花火の映像など、様々な映像を通してもう一度寄居の魅力について考える。

### 2 基調講演

野澤 浩一 (JR 東日本高崎支社) 「寄居からつながる交・流「鉄道」」

人口減少社会の中どのようなまちづくりが求められるか。人口(72.6%に=9000人減少)、通勤、通学(60%に=8000人減少)という試算があり、従来の駅中心型のまちづくりではなく、鉄道系のみならず周辺まで一体としたまちづくりが求められる。また、外国人旅行者の増加

が考えられる中でこれを呼び込むことは重要な観点となる。

### 3 リレートーク

「まちに寄り、まちをつなぐ」13:00-14:45

#### 1. 竹内宣行 点と線をつなぐ「寄りい道」

3つの鉄道、道路、荒川、断層といった要素を考えると寄居には①渡来人の道②戦国の道③木の道④近代化の道⑤絹の道⑥文化人の道⑦地学の道という7つの道があるのではないかと。長い歴史の中に生まれてきたこれらの道をもう一度見つめ直すことが新たな魅力の発見につながる。

#### 2. 上田嘉通 寄居町への思い

自己肯定感のある暮らしの実現。ここで生きここで死んで生きたい、自分の祖母のようにそう思える人が増えることはとても幸せなことではないか、そんな思いを携え寄居町に戻ってきた。人の生きるサイクルを保つことが美しいまちの風景を作ることにつながる。このサイクルを作り、ここで暮らすことに誇りをもてるような街を実現したい。

#### 3. 樋口和男 寄居の風景

交通—観光をつなげることは重要なポイントである。こんないいところが寄居にもあるということ伝えていくことストーリーが必要。また、古くから文化人たちが寄居の風景を目的に訪れていたという歴史がある。都会から少しの距離にあるという立地を生かし教養のあるストーリーを作っていくことが観光地としての寄居の活性化につながるのではないだろうか。

「まちを魅せる、まちづくりをほめる」14:45-17:00

#### 1. 岡野高志（北本市観光協会）暮らしの場の習慣を観光に

日常の行動が観光資源。資源というのは単に消費するものではなく体験できるものでありこれを新たに発見していくことが必要。北本市では2ヶ月に1度のオープンミーティングからプロジェクト化(体験できることを作る)→ツアー化(体験活動として実際に行う)、→広めていく(webフリーペーパー等)という流れでこれを行っている。

#### 2. 時田隆佑（熊谷市観光協会）design travel workshop

2ヶ月の居住を通してアートの視点から雑誌化をするプロジェクトを熊谷で実施。市民ライターを募集し外部の目線から新たにまちの魅力を再定義してもらおう。今後は訪日外国人と日本人の受け入れサイドとのマッチング事業やローカルガイドコミュニティの形成を通じてより外から見て何が魅力なのかということ进行分析していく。

#### 3. 竹石研二（深谷シネマ）映画館を通したまちの再生

深谷市で酒蔵を改装したまちの映画館を運営。昔は物を売るということを通して住民同士のコミュニケーションがあった商店街、これをまちの外に出なくても楽しめるような生活街に変えていくことで住民の交流拠点として街に根付いていくのではないかと。街は残していくことで成長していくものである。

#### 4. 田中克彦（小川町創り文化プロジェクト）小川町まちづくり文化プロジェクト

住んでみたいまちを作る。現代芸術を表現する場所として空き家を利用する。プレイスメイキングになるような町のストックの使い方をすることで、芸術家のニーズとまちに不足している活気をうまく融合させる。

#### 5. 小林晃一（幸手アートさんぽ）SATTE ART SANPO

幸手市でのアートプロジェクトを例にまちを考える。ストレスの多い現代社会でアートという一つの物に打ち込む、アートを純粋に楽しむという行為を通して生活の質を向上できるのではないだろうか。アートに否定はない。プロセスを見せながら人の営みを感じるようなアートを通したプロジェクトでより住むのが楽しい街へ。

#### 6. 渡邊朋子（宮代町コミュニティセンター進修館）進修館運営を通じて

市民の力で運営していくコミュニティセンター。まずは施設のファンになってもらう活動、そこから建物を考える活動に結びつけていくことで建物は市民により近い存在へ。また、運営にも住民の声を反映できるように一緒に運営していく形をとる。写真展等のイベント、大学との連携イベントを通してコミュニティを作ってきた。

#### 7. 畔上順平（旧日光街道越谷宿を考える回）歴史を生かした新しい越谷のまちづくり

日光街道沿いの歴史ある街並みをどう残していくか。実測調査、古民家ガイド、コンサートなどを含んだツアーで現状を知ってもらう。人が人を呼ぶような関係作り。コミュニティカフェの運営や、空き家イベントの他にもハウスメーカーとコラボして蔵を残すことがむしる魅力につながる発案も行った。

#### 8. 高橋浩志郎（草加市役所）草加市での空き家活用事業

まちづくりとはまちのコンテンツ作りである。交・産業を中心にコミュニティを形成していくことを目標とし、小さく産んで大きく育てていけるような実案を作るリノベーションスクールを開講。空き家率 2.9%、ベッドタウンである草加だからできる事業を行っていく。住民こそが地域資源、みんなの活躍の場があるまち作りをこれからも続けていく。



#### ◇意見交換

##### Q&A

- ・宮代町について NPO 発足、進修館建築の経緯

→集会所としてどこにもないオリジナリティのある施設を目指した。NPO については市民に解放するというコンセプトを作るにあたりもともと職員だった人を中心に発足した。

- ・障害者配慮に関して何か対応があれば

→現実問題としてそこまで対応し切れていない。/農業-福祉を連携させ働き場所を提供/スロープ、誰でもトイレの整備/障害というのも個性という捉え方/みんな同じような参加のできるプログラム/コンサートイベントのリハーサルを障害のある方に無料公開/スタッフとして雇用/オーナーとして特老に関わることで参考に/町の保健室/障害のある人もいるというのが日常に/特別支援学校におけるインターン制度の実施

- ・大学との交流

→町のお祭りでサークルが参加/トモダチガイドのガイドとして/大道芸、吹奏楽サークルのイベント参加/地域イベントと大学祭を同時に行い相乗効果で人が増えるようにしている。

##### これからの寄居のあるべき姿

- ・関係人口⇄交流人口⇄定住人口につなげていく
- ・テーマのあるまちづくり
- ・埼玉一帯での広域連携
- ・今までにない視点(スポーツ、芸術)での可能性の模索
- ・子供が主役になれるようなまち、いい思い出の残るようなまち
- ・歴史的なものを1つでも多く残していくための具体的方策作り
- ・歩行圏にまとまるイイもののプロデュース。
- ・あるものをどう活用していくか

#### ◇まとめ

なんども上がった言葉をキーワードに寄居のこれからを考える

**観光でのキーワード**      **生活でのキーワード**

**視点/体験/交通/物語**      **発見/活用/日常の魅力**

都心からそれほど遠くない距離にある寄居、3つの路線が重なり印象的な川と鉄道の風景があるまち。駅を中心とした徒歩で行ける観光を中心にしたまちづくりをしていく必要がある。地域のヒト、モノがつながり新たな魅力につながるような物語を紡いでいき、そこに外部からの新しい一手が加わることで、今ここにしかない、ここだからできる暮らしが実現する。人が寄るまち、集うまちという寄居の魅力が更に広がっていくことを願ってまとめさせていただきます。

◇懇親会 PM17:00-PM19:00

シンポジウム終了後、懇親会が催され参加者の皆さんと交流を深めることができた。寄居町出身アイドルもいらっしや、場は大変盛り上がった。

